

# 公園等施設点検特記仕様書

## 1 摘要の範囲

本特記仕様書は、公園緑地等管理委託における公園等の施設点検業務に適用する。

## 2 施設点検の目的

本特記仕様書に基づき、施設点検を実施し、公園緑地の「安全性の確保」、「機能の保持」、「美観の維持」に配慮した公園施設の適正な維持管理を行うことを目的とする。

## 3 施設点検の方法

点検に際しては、施設の構造や種類に応じて適切な点検方法と内容を実施することが必要になる。施設点検では、計測器具などを用いない「目視・触診・聴診」の3点を主体として行い、具体的な点検方法や留意点は以下に示すとおりとする。

### (1) 目視・触診

- ①目視・触診は、対象となる施設を実際にじっくりと観察したり(目視)、手で触れる、揺する、引っ張ること(触診)で、劣化状態などを診断する方法で、外観検査ともいう。
- ②目視や触診の点検時で気づいた箇所があった場合は、当該部分の写真を撮影し市監督員に報告すること。
- ③点検の対象は施設全体となるが、特に高所に設置されている落下防止柵の接合部など、点検が困難な場所に異常があることも多いため、利用者の落下の危険が考えられる場所については重点的に点検すること。

### (2) 聴診

- ①聴診は、ぶらんこやシーソーなど動く構造のある遊具等において、実際に動かし、そこから発生する音を聴き、異常の有無を点検すること。
- ②異常音が発生した場合は、その大半は可動部の油切れなどが原因と考えられるが、ベアリングの摩耗など複合的な要因から発生している場合もあるため、十分に注意する必要がある。
- ③点検時に、乗ったり揺すったりすることで、遊具からきしみ音等が発生する場合は、接合部の緩み・摩耗などの劣化の可能性があるので、発生音には注意すること。
- ④聴診の点検時で気づいた箇所があった場合は、当該部分の写真を撮影し市監督員に報告すること。

## 4 樹木点検の方法

樹木点検に際しては、樹種や樹木の特性を考慮し、適切な点検方法と内容を実施することが必要になる。樹木点検では、木づちなどを用いたうえで「目視・聴診」の2点を主体として行い、具体的な点検方法や留意点は以下に示すとおりとする。

※異常箇所報告書に添付の参考資料「緊急度の補足」を参考とすること。

## (1) 目視

- ① 目視は、対象となる樹木全体をじっくりと観察し、枯れ枝や折れ枝、うろ、キノコの有無等、異常箇所がないか確認すること。
- ② 目視の点検時で気づいた箇所があった場合は、当該部分の写真を撮影し市監督員に報告すること。

## (2) 聴診

- ① 聴診は、樹木の根本や、うろ、きのこ付近の幹を中心に木づち等を使用し、打音を確認すること。
- ② 打音異常が所見された樹木については、当該樹木の写真を撮影し市監督員に報告すること。

## 5 施設の構成材料

点検は、「遊具施設」、「その他施設」の2種類に分類して実施する。施設を構成する材料には様々な素材が使用されており、それぞれの特性に応じた点検を実施することが必要になる。以下に、構成材料の特徴と点検の注意点を示す。

### (1) 金属類

- ① 金属類の劣化は、塗装等の保護処理の剥げによる錆び、腐食等がある。
- ② 支柱等の直接土に接する部分（地際部）は、一般的に錆びやすいので、特に注意して点検する必要がある。
- ③ 可動部分は、回転軸・ベアリング・軸受け類の摩耗や変形などが起こりやすいので注意して点検する必要がある。
- ④ その他、つなぎ目の部分（特に構造的に大きな力が作用する部分）のボルト類の緩みや脱落、継手金具の破損、利用者が直接触れる可能性のある部分や雨水が溜まりやすい部分のさび、劣化状況等に注意すること。

### (2) 木質類

- ① 木質類の劣化は、腐朽、ひび割れ、ささくれ、欠け（欠損）、節抜け、摩耗、折れ、ぐらつき、たわみ、接合部材での損耗等がある。
- ② 水平に設置された大断面材の上面やひび割れの内部は、雨水が溜まりやすく湿潤状態になりやすいため、特に内部の腐朽等に気を付けて点検する必要がある。
- ③ 木質類も、支柱等の地際部が、一般的に腐朽しやすい傾向にあることから、特に注意して点検する必要がある。
- ④ 床板の隙間や部材同士のつなぎ目なども土・砂や雨水が溜まりやすく湿潤状態になりやすいため、注意すること。
- ⑤ その他、つなぎ目の部分（特に構造的に大きな力が作用する部分）のボルト類の緩みや脱落が無いか等に注意すること。

### (3) プラスチック系材料

- ① プラスチック系材料は、他の材料に比べて膨張係数が大きく、紫外線による影響も受けやすい。その主な劣化は、欠け、ひび割れ、波打ち、湾曲、損傷等がある。
- ② 利用者が直接触れる可能性のある継ぎ目部分やボルト穴の周辺等に注意して

点検を行う必要がある。

- ③ ガラス繊維強化プラスチック(FRP)は、摩耗によるガラス繊維の表面露出、ひび割れ、変形などに注意して点検を行うこと。

## 6 点検の内容

公園施設点検は、「遊具施設」及び「その他施設」の2種類に分類して実施する。それぞれの点検内容を以下に示す。

### (1) 遊具施設 (遊具の安全に関する規準 JPFA-SP-S : 2024 に準じること)

- ① 公園ごとに、別紙「遊具の日常点検表」に記載の点検項目について点検を実施すること。
- ② 点検の際に可動部分に対する必要な給油及び遊具の付属ボルト、ナットの締め付けを実施すること。
- ③ 遊具の日常点検表に記載の点検項目について、異常の有無、異常箇所や気づいた点を記入し、異常箇所については別紙「異常箇所報告書」の様式で提出をすること。

### (2) その他施設

- ① 遊具以外の施設については、別紙「管理施設等点検表」に記載の点検項目について点検を実施すること。
- ② 各点検項目について、異常の有無、異常箇所や気づいた点を記入し、異常箇所については、別紙「異常箇所報告書」の様式で提出をすること。
- ③ ベンチやフェンスの付属ボルトやナットの締め付けを実施すること。
- ④ 倒木や枯損木が発見された場合は、写真撮影を行い随時、市監督員に報告すること。

### (3) 緊急点検

強風の大雨や大雪、落雷など異常気象が発生した場合や地震（主に中震以上）等においては、市監督員と協議し公園内の被害状況を確認するための緊急点検を実施する。

## 7 点検の報告

- (1) 点検については、監督員と打合せの上、年5回とし原則2ヶ月に1回実施するものとし、受注者は、全点検終了後、土曜日、日曜日、祝日等を除く10日以内に、「遊具の日常点検表」、「管理施設等点検表」及び「異常箇所報告書」を作成し監督員に提出すること。
- (2) 緊急点検を実施した場合、受注者は緊急点検終了後、速やかに公園毎の被害状況報告書を作成して市監督員に提出すること。
- (3) 「遊具の日常点検表」、「管理施設等点検表」及び「異常箇所報告書」については、委託業務開始時に監督員よりエクセルデータを配布する。受注者は、配布されたデータに点検結果を直接入力し、CD-R または DVD-R にて点検完了月毎に市監督員に提出すること。
- (4) 点検の結果、著しい破損や、危険な状況を発見した場合には、監督員の承認を待たずに使用禁止等を含む必要な措置をし、速やかに報告し指示を求めることとする。